

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4098000062		
法人名	社会福祉法人 光和苑		
事業所名	認知症対応型グループホーム かすみそう		
所在地	〒800-0337 福岡県京都郡苅田町大字稲光1244番地		TEL 0930-26-9020
自己評価作成日	令和02年02月12日	評価結果確定日	令和02年03月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号		TEL 093-582-0294
訪問調査日	令和02年03月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢であり、認知症を患っている方々の一番の楽しみは食べることであるので、「四季を味合う食事会」では工夫をして一緒に作ったり、一緒に食べたりしている。また、敷地内に畑を設け、四季の野菜を作り、食事の一品にもしている。口腔ケアは1日3回行い、肺炎防止に取り組んでいる。楽しい生活が送れるように、介護5になっても医療行為が発生するまでは、大切な家族の一員として「ゆっくり」「楽しく」「共に」職員と子ども暮らしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然が残る豊かな環境の中で、母体法人併設の定員9名のグループホーム「かすみそう」がある。多くの事業所が集まる福祉村の一角に2年前に開設し、認知症高齢者が安心して暮らせる事業所である。敷地内の「いなみつ村」では、無料講座を開催し、障がい者、高齢者、地域住民の交流の場となっている。「なんだかんだ祭り」や「地域応援餅つき大会ふれあい祭り」には多くの参加者で賑わい、地域の祭りとして定着している。栄養バランスの取れた配食サービスを利用しているが、園庭で育てた野菜を献立に採り入れたり、ケーキ作りに挑戦する等、利用者が「食」を楽しめるよう工夫している。ホーム長を中心に優しい職員がまとめ、「ゆっくり」「たのしく」「共に」をモットーに、職員が笑顔で利用者へ寄り添い、明るい笑顔を見守る家族の喜びは大きく、利用者や家族と深い信頼関係が築かれている、グループホーム「かすみそう」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆっくりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念を事務所内に掲げ、名札の中にも入れている。職員会議の時には全員で唱和を行っている。	法人理念を見やすい場所に掲示し、職員会議や法人研修の折に振り返り、職員一人ひとりが理念を理解出来るように取り組んでいる。「ゆつくり・楽しく・共に」をホームのモットーとして、利用者がその人らしく安心して、ホームの中で暮らせる支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人単位で行っている、夏と冬の祭り、交流を目的とした無料講座や様々なイベント、に事業所としても参加している。また、地域の清掃、地域の行事やイベントなどに積極的に参加し地域貢献に取り組んでいる。	法人全体で取り組む夏祭りや冬まつり、「いなみつ村」で開催される無料講座(カラオケ、生け花、書道等)や各種イベントに参加して、地域住民と交流が図られている。年2回行われる地域の環境美化活動にも利用者と職員が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くの公民館で行われている「白川福祉連絡会」に法人として参加している。認知症の事例などもある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度委員の方々に集まっていたり、その中で事業での取り組みや、ヒヤリハット報告などを報告し、現在行っていることを理解していただいたり、意見をいただいたりしている。	利用者代表、家族代表、地域代表、苅田町職員、地域包括支援センター職員の参加を得て、運営推進会議を2ヶ月毎に開催している。ホームの運営や取り組み、事故等の報告を行い、参加委員からは、質問や意見、情報提供を受けて話し合いホームの運営に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者、ケアマネが役場へ行く機会を多く持ち、解らないことがあれば指導していただいている。役場からケアプランチェックヒアリングを1月に受け指導をいただいた。その中で分からないことなどを密に説明していただいた。	ホーム長が高齢者推進委員会の委員として、行政と関わる事が多く、情報交換を行っている。ホーム長は介護の疑問点等を行政窓口にご相談し、ホームの空き状況や事故、困難事例等を報告し、行政と協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	車椅子上で拘束、昼間の玄関の施錠等はしない方向で、年に2回の事業所研修でも身体拘束をしない取り組みについて話し合いを行っている。	身体拘束廃止についての職員研修を、職員会議の中で年2回開催して具体的な身体拘束について確認し合い、利用者一人ひとりに合わせた対応を心掛け、言葉遣いや薬の抑制等にも注意しながら、「身体拘束をしない・させない」介護の実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	些細な虐待でも行為を見た職員が言えるように、見過ごしがないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	保佐人を利用している方がいるため、すべての職員がわかるように、パンフレットなどを利用して説明を行っている。利用者家族からも必要性を聞かれることもあるので、パンフレットの説明を行い検討していただいている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する資料やパンフレットを用意し、利用者や家族から相談があれば、内容や申請方法を説明できる体制を整えている。職員は、権利擁護に関する制度を活用している利用者の保佐人とのやり取りの中で、制度についての理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書の説明を、重要事項説明書を読みながら話を進めている。疑問に思うところは詳しく説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置して要望などを入れて欲しいことを家族等をお願いしている。また、家族が来苑した場合には現在どのような状態にあるか、今後どのような支援を希望しているかなどを時間をかけ話をしている。	職員は利用者の希望を聴きながら、家族面会時に利用者の健康状態や暮らしぶりを報告し、家族の意見や要望、心配な事等を聴き取り、ホーム運営や利用者の日常介護に反映させている。また、玄関に意見箱を設置して外部の相談窓口も掲示されている。	年1、2回、行事を兼ねた家族交流会を開催し、ホームと家族同士の交流を図り、共に利用者を支える関係を築いていく事を期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やミーティングなど意見が言えるような雰囲気を作り、また、言えない方に関してはセルフチェック表の裏面に記入欄を設け相談などをしてもらっている。法人単位のことは、経営会議に持ち込み、理事長が出席するので、反映させている。	毎月職員会議を開催し、職員の意見や提案が出し易い雰囲気を設け、活発な意見交換が行われている。出された意見や提案は検討してホーム運営や業務改善に反映させている。また、欠席者は職員会議録を見ることで、情報が共有出来ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賃金の幅は経験、資格などを考慮し、実勢などは半年ごとに見直しを行う。子育て応援として無料の託児施設を設けている。有給休暇、公休は本人の希望を優遇している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用に関しては介護、調理とその人の能力を発揮できる環境づくりを行っている。年齢に関しても、若い方から、70歳近くの方まで様々である。	法人全体で、人材育成に力を入れており、法人研修、ホーム内研修等、学ぶ機会が多い。職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はしていない。子育て支援として、無料の託児所を併設する等、職員が働きやすい職場環境を整え職員の離職は少ない。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居している方はいろいろな生活史を持っていて、職員は長い人生の中で培ったことを敬い尊重するように、法人で行っている人権教育を通し、活動に取り組んでいる。	利用者の人権を尊重する介護の在り方を、毎年、法人研修の中で取り上げ、職員への意識づけを行っている。特に、親しさからくる言葉の乱れなど、気づいた時には注意し合い、利用者を敬い、一人ひとりの尊厳のある暮らしの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年2月の法人研修にて、理事長の思いの話があり、研修に関しては、受けられる機会を設けるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員などの専門的な研修の後に、交流会があるため参加できるように配慮している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	介護支援専門員をはじめ、職員が一緒になって、ご本人の話を傾聴し、時には家族が来苑時に一緒に話を行ったりもしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申し込みの時から家族の不安などを聞き、入居が決まったら、再度要望を聞きながら関係づくりを行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の生活の場に行き、見学や面談を行う。ここで、できるサービスや代替えのサービスなどの話も行う。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分でできることを見つけ、できたことを一緒に喜び、そのことが維持できるようにしっかり援助している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	四半期に一度「かすみそうだより」をかすみそう読んでいただき、ご本人の心身の様子、生活の様子などをお知らせしている。また、介護支援専門員を中心に、この頃のことはしっかりと報告を行っている。逆に帰省した時には、自宅での様子も詳しく聞くようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の勤務者が挨拶や声掛けを全利用者に行い、いつも声をかけてくれる人となじみの関係を作っている。また、担当を決め何かがあった時には寄う支援を行っている。	敷地内の「いなみつ村」での交流や、家族との外出、自宅への一時帰宅等、利用者の馴染みの関係を大切に支援を行っている。家族が定期的に面会に来て貰えるようお願いしたり、家族が近所の方と一緒に面会に訪れる等、これまでの関係がホーム入居で、途切れないよう支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングのテレビを中心にソファ座り、お互いが話しやすい環境を作っている。傾眠をしている利用者を他の利用者が寄りかからせてあげたり、過ごしやすい環境がある。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	夏、冬まつりのDMを出したり、お祝い事があったら、病院にお祝いのメッセージをもっていったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時はご本人が何をしたいかわからない方が多いので、独自の生活史を記入していただき、エピソードなどを共有して、話ができるようにしている。	入居時に、利用者一人ひとりの昔の話、エピソード等を、「生活史」として記録し、利用者との会話や対応のヒントにしている。意志を伝えることが困難な利用者には、職員が家族に相談したり、職員が利用者へ寄り添って声をかけ、その表情や仕草から思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族や、担当ケアマネ、看護師等関係していた事業所から、趣味、生活スタイルについての聞き取りを十分に行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご自分ではできないと思っている方にも励ましながらできることに共鳴し、生活リハビリなどに力を入れ、その人らしい生活スタイルの支援を行っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、スタッフ、医師等と情報を共有し、共通の課題、意識をもってケアにあたるように計画を作成している。	担当職員は、利用者や家族の希望を聴き取り、カンファレンスやモニタリングを開催し、利用者本位の介護計画を作成している。入居後は1ヶ月、その後は3ヶ月毎に見直し、利用者の状態変化があれば、家族や主治医と相談して介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状況をわかりやすく記録し、利用者の思いや心身の変化を知ることによって柔軟な対応ができるように心がけている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の思いを知り、スタッフが個々に対応できるように意識を持ち体制を整えている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの食堂で昼食をとり、近くの公園で遊んだり、公民館の桜を見に行ったりしている。また、法人本部で行っているクラブ活動に参加し外部からくる方たちとコミュニケーションをとっている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの内科に居宅療養管理指導をお願いし、増悪するようなことや、そこにない受診科については情報提供書を書いていただき、別の病院へ行き、家族もと相談を行いながら支援を行っている。	入居開始時に利用者や家族と話し合い、主治医を決めている。ホーム協力医を含め、ホーム職員が受診に同行し、結果を家族に報告して利用者の医療情報の共有に努めている。日頃の状態変化については、ホーム看護師に相談しながら迅速に対応し、安心して医療が受けられるように取り組んでいる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がグループホーム内には常駐していないが、法人内の協力施設が目の前にあり、その看護師に相談を行っている。介護職は体調管理、薬の管理、を行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	内科のドクターに密に利用者の状況を話し、受診し、入院が必要な場合は、ドクターからの情報提供書、またここでの暮らしも、病院のソーシャルワーカーに伝えている。入院しても家族と一緒にDrの話を聞きに行ったりと、病院への関係づくりには気を使っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合、ホームでできる支援を十分に話し承諾を得ている。見取りはできなくても家族と相談しながら、ぎりぎりまで支援できるように、主治医と話をしている。	ターミナルケアについて、契約時に利用者や家族に、ホームで出来る支援について説明を行い承諾を得ている。利用者の重度化が進むと、家族と連絡を取りながら、主治医も交えて今後の方針を話し合い、関係者で方針を共有しホームで暮らせる環境整備に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の初期対応、事故防止、などの研修をグループホーム内で行っている。現場で発生したことについて、その取り組みを見て、反省を踏まえたところで身につけられるようにミーティングなどで、取り上げている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回以上の研修を行い、法人内の他事業所が周りがあるので、協力体制を作っている。	グループホーム独自の避難訓練を年2回実施し、通報装置、消火器の使い方、避難経路、避難場所、周囲の事業所との協力体制の確認を行っている。災害時に備えて、非常食、飲料水、非常用備品の備蓄も行い、非常時に慌てないように取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩と付き合ううえで敬い、守れるプライバシーは守っている。居室のカギ、トイレのカギは習慣で閉める方もいるが、時間が長くなっているときは声掛けを行っている。	入浴や排泄の場面では、利用者のプライドや羞恥心に配慮した声掛けや対応の支援に取り組んでいる。利用者のプライバシーを守る介護の在り方について、常に職員間で話し合い、利用者の尊厳のある暮らしの支援に取り組んでいる。個人情報の取り扱いや職員の守秘義務についても周知徹底に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思、意向などは尊重すように、努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人から本日何をしたいと言えるように、選択肢をもって話をし、スタッフと一緒に決めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る洋服を選んでいただいたり、髭剃りも鏡を見て、きれいになりたいと思えるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一番の楽しみが食事といわれる方が多いので、どのように支援したらよいかミーティングで話し合いを行っている。外部からくる食事に手を加えたり、畑に野菜を採りに行き大根と一緒に洗って、皮をむいていただいたき、汁に入れたり、煮たりしている。歩ける方は食器の下膳もしていただいている。	栄養バランスの取れた配食サービスの料理を温めて、盛り付けて提供している。ホームの畑で採れた新鮮な野菜を利用者と収穫して献立に取り入れ、新鮮な野菜を提供し、季節感を楽しめるよう努めている。ケーキ作りや干し柿作りにも挑戦し、作って食べる楽しみの支援にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てたメニューなので栄養のバランスはとれている。水分は摂取表に記入して把握している。牛乳が飲めない人にはコーヒーを入れたりもしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、入れ歯の方は夜間に洗浄剤を入れ清潔を保つようにしている。状態が悪い方には、歯科の協力医に診察していただく。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	高齢になり、ADLが低下しがちだが、声掛け等を行って、現状を保ったり、リハビリパンツが外せそうだったら、布パンツに代えてみたりしている。	利用者が重度化してもトイレで排泄を基本として、職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行い、失敗の少ない排泄支援に取り組んでいる。オムツ外しにも挑戦し、利用者の自信回復とオムツ使用の軽減に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘には繊維質が良いと聞き、畑にサツマイモやジャガイモを植え蒸かし芋にしたり、マッシュポテトにして提供した。水分もお茶以外に、紅茶、コーヒー、牛乳バナナヨーキ等摂取しやすいものを提供している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴だが、必要な時にはそれ以外にも入っていただいている。また、体調不良が続く場合には、清拭や足浴なども行っている。	入浴は、利用者と職員がゆっくり話が出来る大切な時間と捉え、利用者の思いを聞き出している。また、入浴を拒む利用者には無理強いせず、清拭や足浴に変更している。現在は、基本的には週2回の入浴となっているが、利用者の希望や必要時には、その都度対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	TVを見る方は寝ていても見やすいように、方角を気にする方には方向なども都度確認を行いながら支援を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更があった際には説明を受けたものが特記事項に記入し、ミーティングなどで結果を詳しく報告するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たため、テーブル拭き、いただきますの唱和等個人でできる役割を無理なくできるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの食堂で昼食をとり、近くの公園で遊んだり、公民館の桜を見に行ったりしている。ご家族にもカラオケやドライブなどの支援をお願いしている。	利用者と職員は、系列事業所の祭りに参加したり、園庭での芋掘りや野菜の収穫、ウッドデッキでの日光浴等、出来るだけ戸外に出て外気に触れられるよう支援している。天気の良い日を利用して、外出レクリエーションを計画し、バスハイキングや紅葉狩り等に出かけ、利用者の気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行えていない。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	淋しがったりしたときは、ご家族に事前に許可を経て電話を行っている。年賀状などを読むことはできるが、書くことはできていない。法人のいなみつ村のクラブ活動で絵手紙を書き、家族に見てもらうことはある。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住居自体が全体的に明るく、リビングは広くとって、くつろげる空間である。温度調整は全居室に湿度計付きの温度計を設置している。温度、湿度に十分管理ができるように気を配っている。畑でその季節にできる野菜を作り、収穫し、料理をして食べている。	新築平屋建てのゆったりとした造りで、リビングルームとダイニングのスペースは広々として、明るく開放的な共用空間である。室内は手作りの作品や季節毎の飾り等で、季節感や生活感を採り入れている。ウッドデッキや園庭等、戸外へ出られる環境を整えている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテレビを中心にソファー座り、お互いがお互いが話しやすい環境を作っている。車いすの方もソファーに移乗し、ゆっくりとくつろげるように支援している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅で見ていたテレビをもって来たり、奥様やお孫さんの写真を飾ったりしている。座りやすいすなども持参されている。	利用者の馴染みの家具や身の回りの物、家族の写真等、大切な物を家族の協力で持ち込んでもらい、生活環境が急変しないように配慮し、利用者が安心して過ごせるように取り組んでいる。また、クローゼットを完備し、清掃が行き届き清潔で明るい居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下は広くとり、手すりを付け歩きやすいように、また、トイレにも規格外の手すりを付けている。浴室は車いすが十分に回転できるようにし、浴槽に入る際に座る板を独自で作り、危険防止にも配慮している。		